

原田優のニュージーランド 連載

○○○○○熟年ひとり旅その①○○○○○



赤羽で生まれて、チカ谷に移り住んで早や40年、商工会をはじめ様々な方々にお世話になりながら仕事一筋、戦後の国中が貧しかった時代、活気溢れた復興期、そして最盛期へ、安心したのも束の間、急激なバブルの崩壊ですべては一気に後戻り、気がつけば人生80年に、それなりに楽しい事も数あったけれど、仕事だけで人生を犠牲にして来た様な何か物足りなさを感ず始

めたのは私だけではないようです。戦後の日本経済の急激な成長期に、資産とのわけ不動産が借入れ担保の主体だった時代に、不動産を取得、それを担保に借入れ、返済を繰り返して成長してきた私の様な事業者にとって不動産価値の急激な低下は残された人生の中でこれまでの「仕事・人生」に欠けていた何かを思い出させてくれたのです。

そんな時に若い頃夢見た事が無性にやってみたくなりました。言葉の不安が！それは外国語を習得して知らない国で自分を試してみることでした。

で行ってみたいと思っただけです。英語はこれまで独学で7年以上(毎朝ラジオとテレビ)で勉強をしていました。幸い川口市に外国人向けの日本語と外国語併記の「CUPOLA」というニュース紙があって、その編集長アリスホームズさんがニュージーランドのクワイストチャーチ出身の縁から、彼女の同級生を訪ねながら「ニュージーランド熟年一人旅がスタートです。

原田優のニュージーランド 連載

○○○○○熟年ひとり旅その②○○○○○



しお話ししましょう。ニュージーランドは赤道を挟んで日本とは対照的な位置にあります。日本からは約9000キロ、航空時間約11時間、時差は1時間、オーロラは南島の右下2000キロの所で、従って日本同様四季がはっきりしていますが正反対です。南島は北島より寒く日本の夏(6~8月)は冬スキーズン、今は春(9月~11月)で桜が満開です。国土は日本の

パーセント人口は約400万人、東京の約1/2、人口密度1平方キロあたり13人(日本333人)羊が人口の約1/2倍という酪農国です。全国に国立公園が14カ所ありその内、トンガリロ等3ヶ所は世界遺産に指定されていて、世界でも有数の自然の豊饒に恵まれた国です。ニュージーランドの歴史は、10世紀頃赤道付近のポリネシアに住む海洋民族マオリ族がカヌーで南下し、北島に上

陸して始まります。その後探検家タスマンやクックによってヨーロッパに知られる様になり、その天然資源を求めて白人が移り住んで数々の抗争の後、1840年ワイタギン条約でイギリスの直轄植民地に、ゴールドラッシュで繁栄し、1947年に独立国となり英連邦の一員として裕福で近代的な国家を築きあげて、今日に至っています。次回はいよいよ出発です。

原田優のニュージーランド 連載

○○○○○熟年ひとり旅その③○○○○○



成田空港で別れを惜しむ原田氏と孫娘

出来る迄自分の一番好きな物を断って日ごと

入ると悪い事に、新型コロナウイルスSARS-CoV-2が中国で発症し瞬く間に世界中に広がります(最終的には世界で約8、000人が感染、死者770人以上)その上イラク戦争の激化で世界中にテロの不安がひろがり事態は最悪です。毎日々英語の勉強に励みながらニュージーランドで、SARSとテロが発生しない事を祈りながら、酒絶ちの正月、も過ぎて三月、早割チケットで航空

券を購入、ニュージーランド第一白目のホテルと北島に二週間その後、南島に渡ってアリスのご両親に会うことだけを決めて後は全くの出たご勝負です。9月2日(日)いよいよ出発の日になりました。当日は雨、午前中仕事を片付けて早過ぎ見送りの妻と娘とあなた(孫娘4才)とスカイライナーで成田国際空港へ。口々に白いマスクの人々の往来は正に異様にまるで宇宙人の中

に居るような気がしました。3時30分出発手続きを済ませて空機内のレストランで私とあなた(共に1月生)の誕生祝い兼ねて食事、5ヵ月振りの酒の旨さは格別でした。4時10分立ち願のあなたと別れてNZ034便に搭乗、6時10分離陸機内は家の定SARSとテロで乗客はガラガラ、お陰で手足を伸ばし睡眠薬代わりの赤ワインで深い眠りにつきました。



〇〇〇〇〇 熟年ひとり旅その⑨

残り10日を切った。家族同様の暖かいもてなしに感謝してクライストチャーチに向かう。アランのロッジに昼過ぎ到着。ジョクに電話入れ、久しぶりにゆつくり休む。翌22日はアランと彼のメソバコースで仲間達と夕方迄ゴルフを楽しむ。5時過ぎジョクを迎えに来て彼のクラブ(会員制)に行く。洒落た造りの建物でビヤホール、カラオケ舞台、ラグビーコート、ヒリヤ



筆者とジョク

ード等あらゆる娯楽施設があり、ジョクの仲間達と飲んで騒いで大いに楽しんだ。毎日忙しくて肝心のクライストチャーチの市内観光に行っていない。朝、観光案内所へ連絡して28日帰国の為のオークランドへの航空券と12

時のディナー付市内観光ツアー申し込む。陽気なガイドと台湾、ドイツ、インドの人達と一緒にマイクロバスでサムナビーチ植物園、美術館、博物館等々観て9時過ぎ帰宅して20時過ぎ帰宅して24日雨(1ヵ月いて1日だけ)図書館へ行き、そのあと映画館へ行く。夕方には雨も上がり夜はジョクと同僚ロス夫妻のお別れパーティに参加、綺麗な庭で各自持ちよりのワインと手料理で約2時

間、30人程の参加者と交互に、しかも早口の会話で少々グロッキー早めに失礼して帰宅する。めったに体験出来ない外国でのお別れのパーティに参加出来た事、ジョクに感謝。26日ジョクとゴルフ、夜は例のクラブでジュネー(ジョクの婚約者)とラスト遊楽した。翌日、人へ町に出る。お札に日本料理で昼食、宿送ってもらいお別れする。夜マオリ(現住民族)コンサート

トツア、各国からの観光客8人で珍しい歌や踊りとハンギ料理又夜行性の国鳥キーウィ(フラッシュ撮影禁止)を観る。27日クライストチャーチ最後の観光はワイナリーツアー、行く先々で美味しワインの試飲で1日中ほろ酔い気分、最終日にふさわしい終わりになった。明日は早い出発だ。ドリー(アランの妻)達に別れとお礼を言っ、床につく、別れは何時も辛い。

〇〇〇〇〇 熟年ひとり旅その⑧

翌朝、翌朝の暈う人々とイギリス風の朝食を取りながら会話を交わす。又何時か、何処かで会いましょう。と挨拶を交わしてクロウの羊の牧場へ向



牧場の女主人ゲイスと羊

か。2時過ぎオマル着、昼食後野生のペンギンを見たかったが果に戻るのが日没だと言う。今夜の宿は山奥の牧場なので奥地ばかり難く3時間近くかかってしまふ真暗な山道の一人運転は美に心細かった。牧場の女主人ゲイスが出迎えてくれ、シャワーを浴びてひと安心遅い夕食は1ヶ月滞在しているイギリス人女子大生アマンダと牧場頭ニール

ールとワインで腹一杯、牧場の夜は動物の鳴き声が心地よい子守唄でいつの間にか眠りに落ちる。牧場二日目、5時目覚める。牧場の夜明けはこの世の物とは思えない程きれいだった。しばし感動して見入る。これ迄の人生の中で感じ

た事のないゆつくりした時間、これが日本で過ごして来た時間(時は金なり)と同じ時間とはとても思えない。人の生き方や価値観は住の環境で大きく変わる物だと思ふ。長時間運転して腰が少々痛い。今日は少しベイスを落としてオマラマを経て湖畔の別荘地ワカナ(リタイア後ここに移り住む人が多い)迄行って早めに戻る。夜はイースター休暇で宿の親戚が集まって大賑

わい。盛でワインを飲みながらラグビーのテレビ観戦そのフィバー振りは物凄く途中で失礼して床につく。翌朝、羊の写真を取り、女主人に見送られて万年雪のマウンテックク、テカボ湖を見てテラアルディンに向かう。壮大な万年雪の山々に圧倒される。その山々を背負に広がる美しい湖はニュージーランドのイメージそのものだ。夕方ジャラルディンに入る。

〇〇〇〇〇 熟年ひとり旅その⑦

4月14日、久し振りにスカイタワー一付近の繁華街を歩く、途中英語の話せない日本人4人(親戚の結婚式で来ていた)に頼まれて通訳代わりで昼食をこ馳走になった。アルバート公園散歩して夕方5時宿に戻り、チェックアウトしてタクシードークランド駅へ6:05発の長距離夜行列車でウェリントン(首都人口34万人)経由、クライストチャーチに向かう。車中宇都宮に来た事があると言う老夫婦(元教師)と隣合せ会話を楽しみなから車中一泊、翌朝ウェリントンで高速フェリーに乗り換え、船中



一泊り学生らと黒ビールを飲みながら美しい海上風景を堪能、昼過ぎ南島ヒクトン着、今度は海岸線を走る名物列車に乗り換えてアザラシやオットセイを見ながら夕方6時過ぎクライ

ストチャーチ駅に着いた。今夜の宿ハイウェイアイロジの主人アラン(後

に親しい友人になる)が出迎えてもう一人の客、ドイツ人の女性英語教師イナと宿に向かう。長旅で疲れて一休みしているといナから電話、夜のハーグレイ公園(日比谷公園の十五倍、庭園の町最

大で別れる。翌日再びレンタカーを借り(今度はアランの紹介で全てOK)南島一人旅に出る。一馬車をマニーデンに直行途中オマル(ペンギン繁華地)で有給で休憩、案内所で今夜の宿と18、19日の羊の牧場に二泊予約しておく。3時半到着。ダニーデンはゴードラッシュで来た最もイギリスらしい町で是非1ヶ月滞在したいと思う。

